



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I II III V 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・学校名 習志野市立香澄小学校 ・対象者 全校 ・人数 270人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (体育、総合、道徳) ② 行事名 () ③ その他 () <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 (1000 か所ミニ集会) ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代を担う子どもたちにスポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちや国際感覚、ボランティア精神等を育むとともに、障がい者への理解を深め、スポーツを通じた人間教育を進める。
5 取組内容	<p>【3×3バスケットボールを応援しよう】</p> <p>東京オリンピックの新種目である3×3バスケットボールを知る機会となる体験型教室を全校児童対象に行った。</p> <p>習志野高校男子バスケットボール部顧問 黒田 裕先生を講師に、習志野高校男子バスケ部員によるデモンストレーションを交えながら競技の説明を行った。後半は、代表児童と職員チームが高校生を相手に実際にゲームを体験した。児童にとってトップレベルの選手の動きを直接見ることで、スポーツへの関心が高まるとともに、3×3バスケットボールを身近なスポーツとしてオリンピックで応援していこうという気持ちが高まった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【ゴールボールを学ぼう】</p> <p>パラリンピックの種目であるゴールボールについて体験型教室を開催した。開催にあたり、順天堂大学の協力を得て、日本ゴールボール協会理事 池田 貴氏を講師に招き、順天堂大学准教授と大学院生3名にもサポートしてもらい行うことができた。</p>

今回の教室は、2学期に体育の授業でゴールボールを学んできた6年生を対象に、まとめの学習として実施した。本物のコート、ゴール、ボールが用意され、競技のルールや技術などが、話だけでなく池田理事や大学院生のプレーを見ることで学ぶことができた。後半は実際に児童が体験し、最後にはゲームを経験することで競技の難しさと楽しさを感じ取っていた。「視覚障がい者であるゴールボールの選手は、聴覚をはじめ使える力を使ってプレーしている。君たちも自分の使える部分を増やしていくことが、自分の力を伸ばすことにつながる。」と話した池田理事の言葉に、障がい者理解を深めることができた。そして、コミュニケーションの大切さ、助け合う心、使える力をたくさん使うなど多くのことを感じ取ることができた。



【私たちができるバリアフリーを考えよう】

4年生の総合的な学習の時間で、自分たちができるバリアフリーについて考える授業を1学期に行った。その中で、障がい者スポーツにも焦点をあて、視覚障がい者ランナーとリード役の体験なども行い、障がい者が必要とするバリアフリーについて考え、新聞にまとめた。その学習で学んだことを深めるため、2学期の道徳の授業で、アテネパラリンピック水泳競技金メダリスト 成田真由美選手の教材を使って授業を行った。その授業を行うにあたり、担当が直接成田選手に会い、本校4年生へのビデオメッセージをいただくことができた。メッセージの中で成田選手が話した「目標を持ち、その達成に向け毎日練習を積み重ねている。達成後は原点に戻り、次の目標に突き進んでいく。」「今嫌いなことがあっても生きていく中でちょっとしたきっかけで大好きに変わる可能性があることを信じてほしい。」という話は、児童にとって励みとなるメッセージとなり、障がい者は大きな壁を一つ一つ乗り越える努力をしていることを学ぶことができた。



6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートが見えないところで努力していることを知ることで、目標を持ち努力することの大切さを学ぶことができた。 ・パラリンピックの種目を実際に体験し学ぶことで、見た目以上に難しいことや選手が大切にしていることを知ることで、障がい者への理解を深めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に関心や意欲を高めるために、話を聞くだけでなく実際に体験することで学ぶことのできる内容にした。 ・身近な選手、トップレベルの選手を招くことで、スポーツやオリンピック・パラリンピックへの関心を高める機会となるようにした。 ・児童だけでなく、保護者や地域の方も参加できる内容とした。 ・単発的な活動にならないように、事前学習、事後学習を行うように努めた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年も参加できた取り組みは一つだけで、低学年にも適した内容を設定することが難しい。 ・実施したい内容があっても希望する学校が多いため計画通りに実施することができず、他の内容に変更せざるを得ない場合が多い。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実践を生かし、次年度も体験型学習を実施する。特に、今年度計画していて実施できなかった取り組みをできるようにする。 ・児童の発達段階に応じた学年ごとの取り組む内容を考え実践する。 ・オリンピック・パラリンピック教育と福祉教育をタイアップさせながら、自分たちができるおもてなしを考え、取り組んでいくことができるようにする。